

法住寺殿跡発掘調査現地説明会資料

平成24 (2012)年3月10日 (土)

調査地：京都市東山区本町通10丁目下池田町 (元京都市立一橋小学校)

調査期間：2012年1月11日～6月30日 (予定)

調査主体：財団法人 京都市埋蔵文化財研究所 <http://www.kyoto-arc.or.jp/>

1 遺跡の概要

法住寺殿は、平安時代後期 (今から約850年前) に、後白河上皇が院の政務を執るために造営されました。平家を後ろ盾にした上皇の権威により、永暦二年 (1161) 頃に、園池 (法住寺池、現大谷高校・一橋小グランド) に面して南殿、その北側に北殿などの御所が造られました。長寛元年 (1163) には、平清盛の寄進により南殿の北西側に蓮華王院 (三十三間堂) が造営され、次いで承安三年 (1173) 法住寺池の西側には後白河上皇の妃である建春門院 (平滋子) により最勝光院が造営されました。今回の調査地は、最勝光院にあたり、寺域は東西半町・南北2町と推定され、中央部に阿弥陀堂、南側に御所や御堂などがありました。法住寺殿は、寿永二年 (1183) に木曾義仲の襲撃により焼失します。その後、鎌倉時代に一部再建されましたが次第に衰退し、現在、往時を伝える遺構は三十三間堂、法住寺および後白河天皇法住寺陵のみです。なお、調査地である一橋小学校の校名の由来は、平家物語にも登場する一の橋によります。

2 見つかった遺構

整地土 調査地は東から西に傾斜する地形の低い部分に位置しているため、寺域を確保するために切り盛りして整地し平坦面を造成しています。整地土は黄色系の粘質土を主体とし、砂の層を間にはさみ、交互に突き固めながら盛り上げ、下層は灰色系の砂質土を主体としています。これらの整地土は厚いところでは約1.9mあります。

調査地の数箇所に、拳大の河原石を並べた後に粘質土をかぶせて叩き締める作業を交互に実施した「石積み地業」があります。この部分は建物基礎の地盤改良の跡と考えられます。出土する遺物から、整地土層と建物基礎地業が造られたのは平安時代後期であることがわかります。

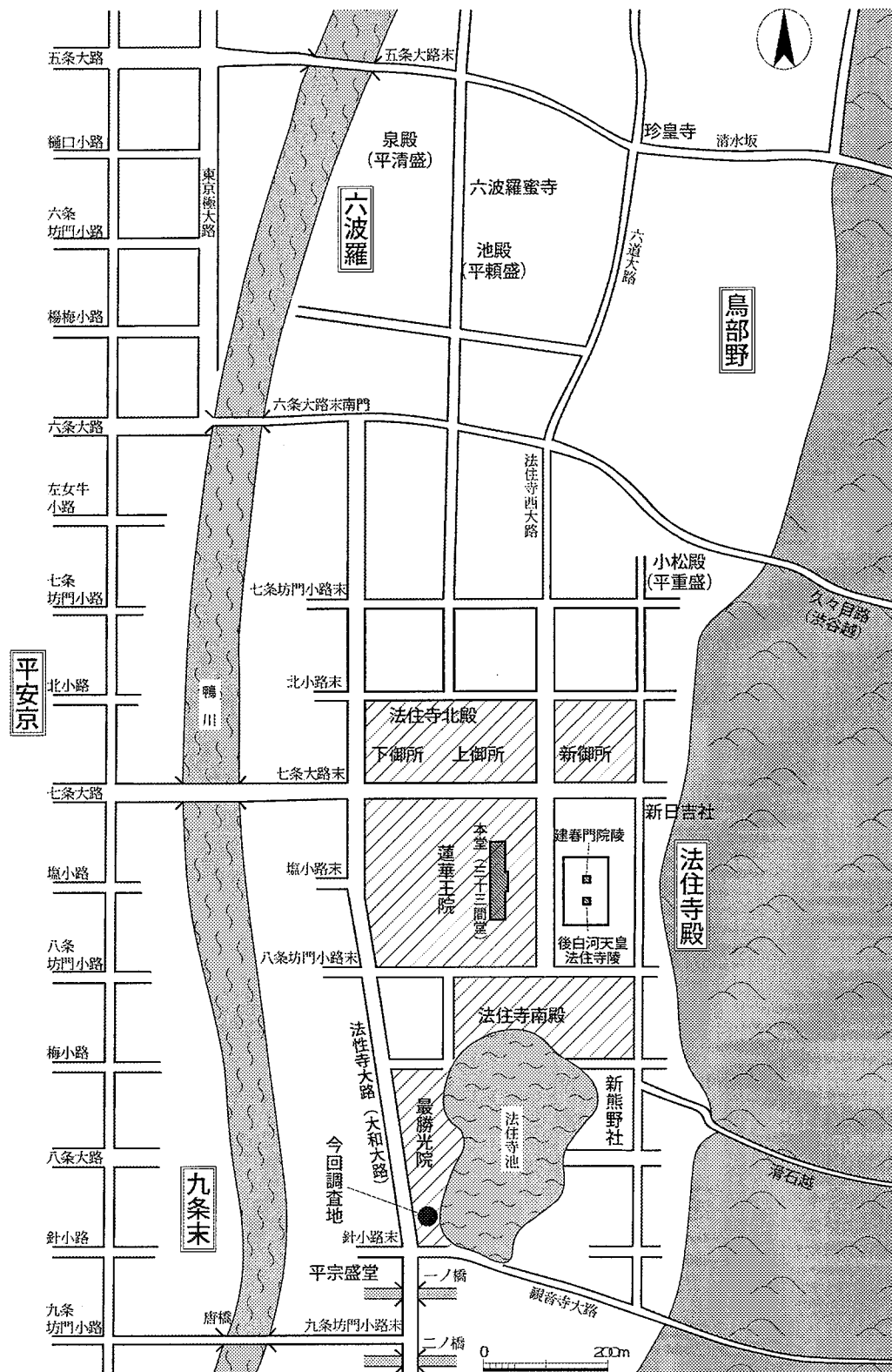
濠 150 調査区の南端で発見しました。幅約6m、深さ約3m、断面が逆台形の大型の濠です。断面を観察すると、下部は砂と泥土とが堆積しており、上部は南側から砂や地山ブロックを含む土で一気に埋められており、最勝光院を造営する際に埋め戻されたようです。

3 まとめ

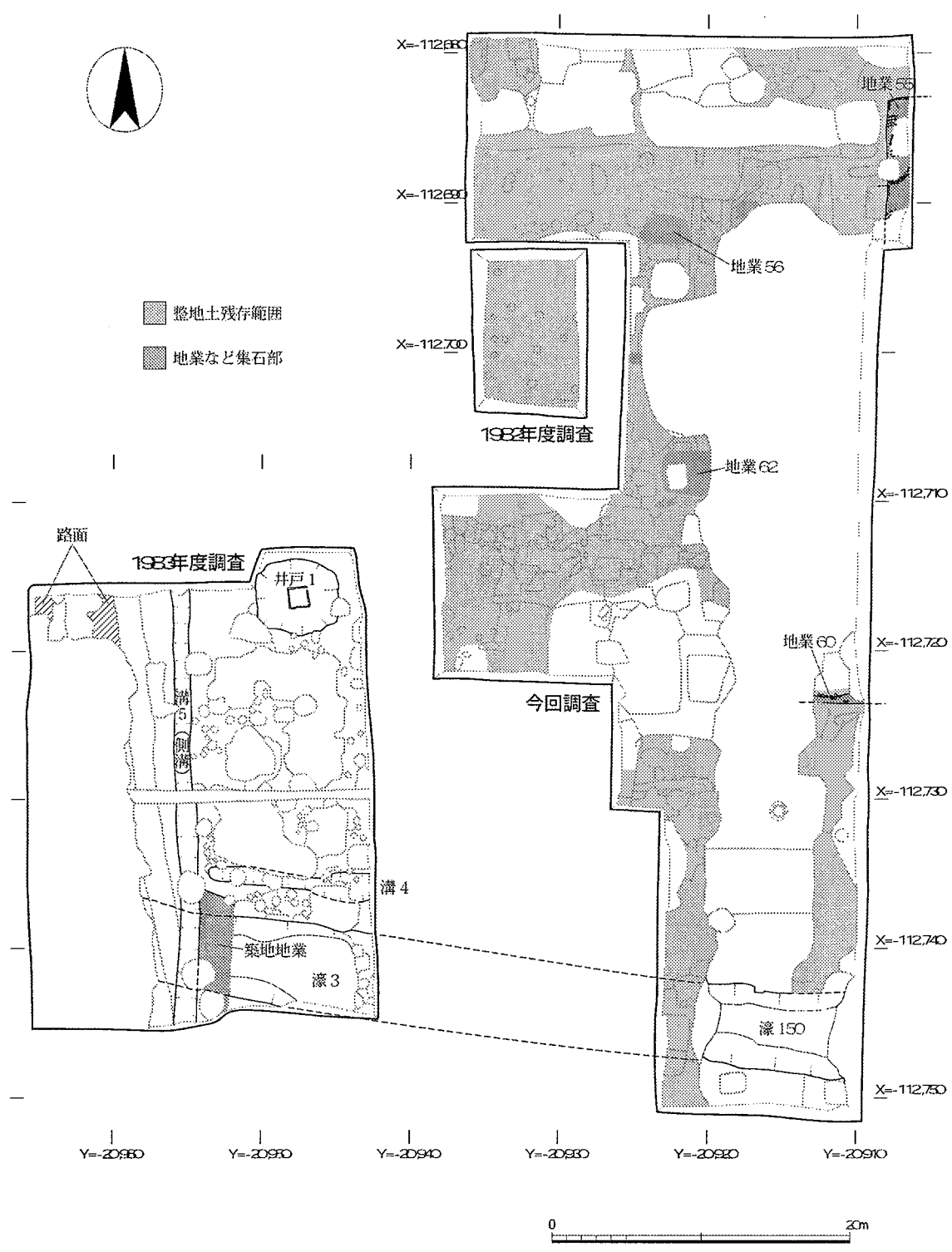
最勝光院には、園池の西岸に面して阿弥陀堂が造られ、その姿は宇治平等院鳳凰堂を模した優美な建物で、前面の池からは船で南殿や新熊野本宮に渡っています。さらに南側には南御所があったとされ、今回検出した建物地業はこの南御所のものと考えられます。今回の調査で発見した地業から、最勝光院造営の際の造成がいかにか大規模なものであったかをうかがい知ることができます。

法住寺殿地域略年表

時代	天皇	院	法住寺殿に関連した出来事	最勝光院	関連したできごと
平安時代中期			968藤原為光が法住寺を供養。 1032法住寺が焼亡。		
平安時代後期前半	1086 堀河 1107 鳥羽 1123 崇徳 1141 近衛	1086 白河 1129 鳥羽			1086白河上皇が院政を開始。 1129鳥羽上皇が院政を開始。
平安時代後期後半	1155 後白河		1156後白河上皇が藤原通憲(信西)の法住寺堂へ行幸。		1156保元の乱起こる。
	1158 二条	1158 後白河	1158信西の妻 後白河乳母が法住寺に清浄光院を供養。 1161.4.13後白河上皇が新造東山御所(南殿)へ移徙、皇后宮同庫、同年8.2西御所に渡御、同年8.3七条上御所(北殿)に渡御。 1164平清盛造進の蓮華王院千体観音堂(三十三間堂)を供養。		1158後白河上皇が院政を開始。 1159平治の乱起こる。
	1165 六条		仁安年間に南殿を改築・拡張し、1167後白河上皇が渡御、平滋子寝殿に御す。同年5.7七条殿(北殿)新馬場にて競馬あり。		1167平清盛が太政大臣となる。 1168平滋子の立后宣旨をする。
	1169 高倉		1169後白河上皇機法堂で出家。	1171後白河法皇と建春門院は、法住寺殿近辺に阿弥陀堂の如き物の建造を企画し、平等院を監覽。 1172建春門院が新御堂(最勝光院)を上棟、1173供養、同年12.2最勝光院内に小御堂(御持仏堂)を供養。 1174後白河法皇と建春門院・高倉天皇が、法住寺殿から舟で最勝光院へ渡御。 1175建春門院が新御所へ渡御。(南御所)	1176建春門院が死去。亡骸を蓮華王院東に新造の法華三昧堂に葬る。 1177鹿ヶ谷の密議起こる。 1178最勝光院内に塔心柱を建立する。
	1180 安徳		1176後白河法皇が東山御所で五十宝篋の賀を行う。 承安年間に七条殿(北殿)の東西部を統合。 1177蓮華王院内の五重塔を供養。		1179平清盛が、後白河法皇を鳥羽殿へ幽閉。 1180福原へ遷都し、後遷都する。 1181平清盛が平盛園邸で死去。
	1183 後鳥羽		1183法住寺殿の所々に塙を掘り、釘板を構える。 同年、木曾義仲が院御所(南殿)を襲撃、放火する。	1183後白河法皇が新熊野社から舟で最勝光院へ臨幸。	1183平家、都落ち。
鎌倉時代	1198 土御門	1198 後鳥羽	1191源頼朝、諸國に造営を課して、法住寺殿を再建。 1209法住寺殿の舎屋を少々壊し、三条西殿(三条烏丸殿)に移築。 1249御堂(三十三間堂)・塔・不動堂が焼失。 1266三十三間堂を供養。	1185地震により北釣殿・二階廊・進物所庫など傾倒する。 1191後白河法皇が最勝光院南蓋御所に渡御。 1226窃盗により堂舎が焼亡。 1227最勝光院を上棟。 1301高倉富小路で火事、余炎で最勝光院が類焼。	1185平氏滅ぶ。頼朝諸國に守護地頭設置。 1192後白河法皇が死去、源頼朝が鎌倉幕府開く。 1198後鳥羽上皇院政開始。 1221承久の乱起こる。



法住寺殿とその周辺 (1 : 1,000)



遺構平面図 (1 : 400)